

歯が足りない!? “先天性欠如”

こあら新聞

第51号

担当 會田 みゆき

本来、乳歯は20本、永久歯は第三大臼歯（親知らず）を除いて28本生えますが生まれつき歯が足りない事があり、これを「先天性欠如」と言います。歯のもととなる「歯胚（しはい）」は、お母さんのお腹の中にある時に作られます。一般的に、顎骨の中で乳歯の歯胚の形成が始まるのは胎生7週頃で、胎生4ヶ月頃には歯が硬くなる「石灰化」が始まります。永久歯は6歳頃に生え始め、12歳頃には第三大臼歯を除く全ての永久歯が生え揃います。驚く事に、一部の永久歯の歯胚も、お母さんのお腹の中にいる時に形成されず。

先天性欠如歯は、何らかの理由で歯胚が作られない事で起こります。乳歯にも永久歯にも見られ、1本や2〜3本だけ欠如する事もあれば、まれに10本以上欠如する事もあり、原因はよくわかっていませんが、遺伝や全身疾患（ダウン症、鎖骨頭蓋異骨症、骨形成不全症、外胚葉異形成）、薬の副作用等が影響しているのではないかと考えられています。

歯の本数が少ないと歯と歯の間に隙間があるので「歯並びが悪くなる」「食べかすや病原菌が隙間に付着しむし歯になりやすくなる」「食事や発生がしにくくなる」といったリスクが生じてきます。



大人になっても乳歯のまま?

歯肉（歯茎）の中で永久歯が十分に育って萌出を始めると、その上にある乳歯の根が吸収されて短くなり、やがて抜け落ちます。これが歯の生え変わりのメカニズムですが永久歯が育っていないと乳歯の根は吸収されませんので、大人になっても永久歯が生えるべき場所に乳歯が残ったままになります。

永久歯が欠如している場合は、乳歯をできるだけ長く残すようにします。個人差がありますが、20〜30代まで乳歯が残っているケースもあります。しかし乳歯は永久歯と比べて根が短く、またむし歯になりやすいなど歯質自体も永久歯より弱いため、永久歯の代わりに一生ずっと残すことは非常に難しいと考えてください。

《欠損部を

そのままにつまみよ》

歯が失われたままの状態が長く続くと両隣の歯が欠如部分に向かって倒れて来たり、欠如部分と向かい合う歯が伸びて来たりして歯並びや噛み合わせを悪くし、顔や顎の変形や骨格の歪みを誘発することがあります。最悪の場合、支えを失って倒れこんだ歯や伸びて来た歯がそのまま抜け落ち、欠損本数がどんどん増えてしまうこともあります。

先天性欠如で乳歯を失った場合は歯並びの悪さが成長や発育、呼吸に影響を与えることがありますので、むし歯や歯周病で歯を失った場合と同様に早めに欠損治療を受けられますことをおすすめします。



《治療について》

◇ 義歯治療（入れ歯）



◇ ブリッジ治療（欠如歯の両隣の歯を削ってつなぎます）



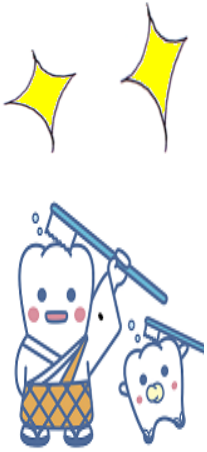
◇ インプラント治療（人工歯根を埋入）



◇ 矯正治療（歯並びを治します）



などがあります。



こあら先生より一言

今年には身内の災難で年間予定やペースがすっかり狂ってしまいました。でも、周囲の協力のおかげで一年を無事終えました。有難うございました。

スタッフの広場

いろいろな出会いと挑戦があった1年、大人になると1年が本当にあっという間で驚きです(笑)
また新年も笑顔で迎えられたら嬉しいです♪ 阿部

寒くなりましたね～。
また、だんだんと体がまるまる季節となりました。
脂肪が貯まるばかりです。
倉田

先日、お花の作品展に自分の作品を出展しました！色々な人に見て頂いて感想を頂けるのは、すごく貴重な嬉しい体験で今年を締めくくって幸せでした♡ 吉田

寒い季節は動物たちの体調がとても心配になります。家のモモンガが今年も元気に冬を越せるよう温度管理に気をつけています。もこもこ袋に入る姿に癒される毎日です。堀